

神はその子供たちを愛す



このメッセージは、同性に引かれるという問題を抱えていて、時には気落ちすることがあっても天の御父の御心になかった生活をしたいと心から望んでいる末日聖徒を対象としたものです。

あなたは神の息子または娘です。わたしたちは思いやりと愛の心をもって手を差し伸べたいと切に願っています。あなたは現在、同性に心引かれるとしても、この世で幸福な生涯を送り、道徳的に清い生活をし、教会で重要な奉仕をし、完全な会員資格を享受し、最終的には永遠の命にかかわるすべての祝福を受けることができます。

モルモン書の預言者ニーファイが「すべてのことの意味を知っているわけではありません」と表現した気持ちはわたしたちのだれもが抱くものです。しかし彼はこう証あかししています。「わたしは、神がその子供たちを愛しておられることは知っています……。」(1ニーファイ11：17) 神はまさにすべての子供たちを愛しておられます。しかしながら、同性に心引かれることに関しても言えることですが、多くの疑問に対する答えは、後の時期まで待たなければなりません。それは来世になるかもしれません。しかし神は簡潔で不変の真理を明らかにして、わたしたちを導いてこられました。神はそのすべての子供たちを愛しておられます。そして神はあなたを愛しておられます。だからこそあなたは神を信頼することができるのです。

## あなたの本質と可能性

**あ**なたは大切な神の息子または娘です。神はあなたの名前だけでなく、あなたのすべてを知っておられます。神があなたに抱いておられる愛は、あなたただけに向けられたものです。あなたは地上に生まれてくる前に、神とともに生活していました。あなたは前世で神とどのようなかわりがあったか覚えていませんが、神は覚えておられます。子供たちは時として神の期待に反することをしますが、それでも神はいつでも御自分の子供たちを愛しておられます。

自分が何者であるかをよく知り、神から愛されているという事実を快く受け入れるなら、神があなたに何を望んでおられるのかをもっとよく理解できるようになります。神はあなたが永遠の命にかかわるすべての祝福を受けることを望んでおられます。永遠の命とは、長く終わりのない命というだけではありません。はるかに深い意味を持っています。永遠の命を得るとは、天の御父のようになって、天の御父のように生き、満ちみちる喜びを受けることなのです。神と同じ律法に従い、神のなさることを模範とすることによって永遠の命を受けることができます。

## 幸福の計画

**神**はあなたが永遠の命の祝福を受けられることができるように、救いの計画、すなわち幸福の計画をお与えになりました。この計画は聖文の中で説明されています。いかなる男性も女性も自分の望みに合わせてこの計画を変更することはできません。永遠の命という報いを与えることができるのは神だけです。永遠の命を含め、この計画で約束されている最も大いなる祝福の中には、すぐに手に入らないものもあります。永遠は長く、この世は短いのです。この世での問題や望みに左右されるのではなく、永遠の原則に基づいて物事を決めるならば、「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を受ける」ことができます(教義と聖約59：23)。

こうした祝福は、永遠の原則に従順であることによって受けられるようになります。家族の重要性はこれらの原則の一つです。天は幾つもの家族で構成され、家族を構成するために主が定められた範囲内で男女がともに創造の力を使うのです。同性愛関係はこの計画に矛盾するものです。夫と妻がいなくては永遠の家族はあり得ませんし、天の御父のような機会もありません。

時には、今のところ異性に心引かれないという理由で結婚を遅らせる人がいます。自己の努力や信仰を働かせること、また贖い<sup>あがな</sup>の効力に頼ることで、同性に引かれる性向をこの世において克服してい



る末日聖徒がいる一方、現世でこのような性向を抱えたままの人もいるかもしれません。しかし天の御父の完璧な計画には、神の戒めを守ろうと努めていながら、自分には落度がないにもかかわらずこの世で永遠の結婚をするチャンスがなかった人のための道も備えられています。天の御父の計画に従うならば、わたしたちの肉体や感情、願望は、来世で完全になります。それは神の子供たちのだれもが、夫と妻と子供から成る家族の中で喜びを得られるようにするためです。

同性愛には情緒的、社会的、肉体的な深い感情が絡んでいます。天の御父の子供たちはだれでも愛し愛されることを望んでいます。それは様々な理由から結婚せずにいる多くの大人も同様です。現在同性に心を引かれている人をはじめとするすべての子供たちに神が約束されていることは、彼らの義にかなった望みは、神の方法で、神が最も良いと思われるときにすべてがかなえられるということです。

## 自 制

天の御父の計画を通して祝福を受けるにふさわしい資格を得るために、わたしたちは試しの時期としてこの地上に送られ、この期間に様々な誘惑や問題に遭遇します。その問題の幾つかはわたしたちの肉体に関連しています。前世において肉体を持っていなかったわたしたちは、肉体の弱さとともに生き、その肉体が出すサインや衝動、生理的欲求を理解できるようにならなければなりません。拒絶することをしばしば学ばなければなりません。来世においては完全な形でこの肉体を所有することになるので、これを自制することはきわめて重要なことです。

わたしたちの肉体は神聖なものです。聖文では「神の宮」と言われることもあります。同性に引かれる人の多くは、自分の肉体の神聖さを大切に、神が定められた標準を尊重しています。標準とはつまり性的な関係を結べるのは「法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ」であるということです（「家族——世界への宣言」『リアホナ』1998年10月号）。天の御父はこのような人の生き方を喜ばれます。しかし中にはこの境界線を越えて、不道德な行為に身を任せてしまう人もいます。肉体的に満足を得たいという欲望によって不道德な行為が容認されることは決してありません。

真の幸福は肉体的な衝動を行動に移すだけで得られるものではありません。このような強い衝動は、人との交流や奉仕など、より基本的な感情の必要が満たされるにつれてなくなっていきます。真の幸福は自制、自尊心、人生を前向きに歩むことから得られるものです。また今の自分、そして将来の自分がどのような者になるのかを教えてくれる真の教義に証<sup>あかし</sup>を持ち、神の幸福の計画に従って生活することからもたらされるものなのです。

同性に引かれる人たちの多くは、福音に対して強い証を持っています。ですから、そうした感情に従って行動することはありません。心を引かれるだけなら、ふさわしくないとされることはありません。不道徳な思いや行動を避けるならば、心を引かれても戒めに背いたことにはなりません。大管長会はこのように述べています。「単に不道徳な思いや感情を抱くことと、実際に異性や同性と不道徳な関係を結ぶこととの間には、はっきりとした違いがあります。」(手紙, 1991年11月14日付)

この原則は神の子供たちすべてに当てはまります。神は結婚の枠外でのいかなる性的関係も容認されないと明言しておられるからです。だれにでも誘惑はありますが、この世で生活する目的の一つは誘惑を克服できるようになることです。デビッド・O・マッケイ大管長は、霊性を「己に打ち勝つ意識」と定義しています (Conference Report, 1969年10月, 8)。概して招かずともやって来るこうした誘惑は強敵ですが、選択の自由を奪ってしまうほど強いものではありません。ダリン・H・オークス長老は次のように述べています。「わたしたちには皆、自分で選んだのではない感情が存在します。しかし、イエス・キリストの福音は、わたしたちには感情に抵抗し、(必要に応じて)それを変形させていく力があると教えています。感情がわたしたちを導いて、不適切な思いを抱かせたり罪深い行動を取らせたりしないためです。」(「同性への誘惑」『聖徒の道』1996年3月号, 17参照) ふさわしくない思いは、心を高める健全な思いと直ちに入れ換えることで抑えることができます。

自制心を養おうとするとき、公私ともに義にかなった生活をするこの大切さを忘れないでください。ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように促しています。「公の場において、わたしたちの行動は非難の余



地がないものでなければなりません。私的な行動はもっと大切です。主が定められた基準を満たしていなければなりません。言うまでもなく罪を覆い隠そうとしたり、罪に身を任せたりしてはなりません。」(「神権を行使する個人のふさわしさ」『リアホナ』2002年7月号, 58)

もし神の戒めや聖約を破ってしまったなら、悔い改めることができます。イエス・キリストは贖い<sup>あがな</sup>を通してあなたの罪の代価を支払ってくださったので、神はあなたを赦<sup>ゆる</sup>してくださいます。十分に心から悔い改めた後は、過去の背きをいつまでも悔やみ続ける必要はありません。主は「すべての人を赦す」よう命じられました。これには自分自身を赦すことも含まれているのです(教義と聖約64:10参照)。

永遠の真理を理解すると、義にかなった行いをしようという強い気持ちがあわいてきます。神がまだ完全には啓示されていない事柄に思い悩んで精力を無駄に費やしたり、欲求不満を募らせたりするよりは、今理解していることやコントロールできることに全力を注いだ方があなたにとって益になります。イエス・キリストの福音の簡潔な真理に従って生活することに力を注いでください。同性を好む性向がきわめて強いものであっても、贖いを信じる信仰によって、すべてのふさわしくない行いを制し、罪のない生活をする力を受け取ることができるのです。

## 生活を美德で満たす



「畑ひたに良い種をまけば、後で雑草に悩まされることはあまりない」とある人が賢明にも言っています。同様に、神が与えてくださる霊的な栄養を生活の中にたくさん取り入れていけば、ふさわしくない性向をもっと容易に抑え、克己心を持つことができます。つまり良い環境を作って毎日豊かに御霊みたまを得、誘惑されるような環境(そのような場所は御霊を不快にさせます)を避けることです。良い環境を作るには、私的にも公的にも常に神を礼拝し、教会に出席し、断食や神殿参入、奉仕、聖文研究、祈りを行い、良い友達と交わり、精神を高揚する文学や音楽に触れることです。自らをこのような環境に置くこ

とにより、あなたの畑は良い実を結び、あなた自身も喜び、天の御父も喜ばれることでしょう。幸福を刈り取るには、神が不快に思われることをしないでだけでなく、価値あるものをはぐくむことも大切なのです。

霊の畑を良い種で満たすために非常に大切なことは、教会の集會に積極的に参加することです。同性に引かれる傾向が続き、どうにもならない緊張感が続くことがあっても、教会で奉仕し、同じ信仰を持ち同じ聖約を交わした教会員と交わることによって強められるのです。聖餐せいさんを受け、シオンの賛美歌を歌い、霊を高める話を聞くことはすべて、霊的成長に役立ちます。失望を感じたり、仲間はず

れにされていると思ひ込んだり、仲間に入れないと感じて、このような良い影響を逸し、教会から離れてしまうことは、霊性を害し、行いを制御したいというあなたの望みを損なうことになります。

同性に引かれる人の中には、教会員からあまり愛を示されなかったために、仲間はずれにされたと感じている人がいます。教会員は皆互いに対して寛容でなければなりません。あなたが愛と親切を示すなら、あなたは彼らに、態度を変えて、キリストにもっと完全に従う機会を提供することになります。

畑を良い影響で満たすことに加えて、霊性に害を及ぼすものを避けなければなりません。この悪い影響の一つが、同性への思いや感情に執着することです。同性愛の性向をさらけ出しても何の役にも立ちません。不必要にその性向を人に見せたり、話題にしたりすることは有益ではありません。同性愛の感情を公然と表さない友達を選ぶ方が賢明です。前向きで義にかなった生き方をする友人や相談相手を慎重に選ぶことが、実り多く徳高い生活をする最も重要な一歩です。同性との付き合いは自然で好ましいものです。たとえそうであっても、肉体的、性的行為に発展しかねないような不適切で不健全な依存関係を避けるために一線を設ける必要があります。特定の同性の友人と過度に親しくすると、道徳的な危険にさらされることになります。主がとがめられた悪習につながる可能性があるからです。わたしたちにとって最も大切な関係は家族との関係です。家族との結びつきは永遠だからです。

もう一つの落とし穴は絶望することです。絶望感が生じるのは、神が絶えずわたしたちを愛してくださるということへの理解と信頼が欠けているときです。神のこの絶えざる愛は贖い<sup>あがな</sup>の力を通して

示されました。神の子供たち一人一人は、天の御父が幸福の計画の中で用意しておられるすべての祝福をいつでも受けられるという事実から、希望を得ることができます。絶望や疑いは、引きこもりやあら探し、焦りの原因となるかもしれません。つまり、人生の疑問への答えや、問題の解決策がすぐには得られないことに焦りを感じるのです。神の御霊はわたしたちを励まし、幸福にさせてくれます。主を信頼してください。この世で十分に理解されていない問題に対して、だれも——自分自身も、両親も、神も——責めないでください。

ポルノグラフィは非常に巧妙かつ有害で、依存症を引き起こす有害で危険な影響力を持っています。たとえ一瞬であっても目にした画像は脳裏に焼きついて、心に隙があるとその画像が浮かび上がり、あなたの決意を崩そうとするのです。義になかった行動は清い思いから生じ、清い思いは心が高揚する文学、会話、音楽、そのほかの媒体を通してはぐくまれます。

幼いころに虐待を受けた人、若くして性的行為にかかわった経験のある人がいます。もしあなたがそうだとしても、虐待を受けたことや、若いときの経験によって、今のあなたが罪悪感に悩んだり、ふさわしくないと感じたりする必要もないことを理解してください。神や神の教会から拒絶されていると感じる必要もありません。幼いときに不適切な行為をした若者が大人になってから同性に心を引かれやすくなるということはありません。

霊を絶えず養うことで、人生を上手に制御することができるようになります。長い間絶食した後で大食しても、肉体を健康に保つことはできません。霊を養うのも同様です。時々思い出したように霊を養うことは、それが幾ら大量であっても毎日絶えず養うことから得ら

れるような結果を生むことはできません。



## 「前進を続ける」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、同性に引かれる人がこのような性向を表に出さないことで、「ほかのあらゆる教会員と同様に、前進を続けることができ[る]」と約束しています（「人々がわたしたちについて尋ねること」『リアホナ』1999年1月号、77）。

神が定められた標準に従って生活し、毎日を価値あることで満たすならば、あなたの生涯は希望に満ちたものとなり、この世において意義ある奉仕をし、社会に溶け込み、霊的にも成長することができます。

地元の教会員に靈感によって勧告する鍵を持つ<sup>かき</sup>ビショップやほかの神権指導者と話すことも助けになります。へりくだった心で正直に勧告を求めれば、彼らは慈愛の心で精いっぱい相談に乗ってくれるでしょう。大管長会は次のように述べています。「教会の指導者や会員の皆さんは、こうした問題で苦しむ人々に、愛と理解をもって手を差し伸べていただきたいと思います。……キリストが示されたような愛と靈感に満ちた助言に多くの人が応えてくれるでしょう。」（手紙、1991年11月14日付）またこのような問題に経験豊かで、福音の教えに添った助言をする専門家の意見を求めるのもよいでしょう。

人の助けを求めるとき、霊的な力のよりどころとしてその人だけに頼ることのないように注意してください。確かにビショップやほかの指導者はあなたに勧告し、神が子供たちに備えてくださった計画の真の原則を教えてくださいますが、あなたが必要とする持続的な力は、最終的には主から得られるのです。そのような力は、聖霊の働きかけを受け入れ、イエス・キリストへの信仰を働かせるときにもたらされます。

そのとき初めて、神の御心<sup>みこころ</sup>に添わない行いや思いを自制するための永続的な決意と十分な力が生まれてきます。

同性に引かれる性向を持つ末日聖徒の多くは、福音の標準に誠実

に従い、主に近くとどまり、必要なときには教会指導者や専門家の助けを得て、毎日の生活の中で前進しています。豊かで満足感のある生活を送っています。そして永遠の命のすべての祝福がついには自分のものになると確信することができます。

道徳的な行為ばかりでなく、多くの点で、福音の教えは世の教えや道と大きく異なっています。このような違いが生じるのは、天の御父が備えてくださった永遠の命の賜物<sup>たまもの</sup>や、それを受けるための必要条件をわたしたちが理解しているからです。わたしたちはすべて、神が愛される息子であり娘です。そのためだれ一人として神の愛の輪から締め出されたり、主の教会が差し伸べる腕が届かない場所に追い出されたりすることはありません。またあってはならないのです。ヒンクレー大管長はこう述べています。「わたしたちは、同性の人への恋心に悩んでいる人々に対して気の毒に思っています。わたしたちは皆さんのことについて主に祈っています。皆さんに同情の気持ちを抱いています。皆さんは、わたしたちの兄弟であり姉妹です。」（「世の策略に対抗して立つ」『聖徒の道』1996年1月号、111）

末日聖徒  
イエス・キリスト  
教会

©2007 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語版承認：2007年4月 翻譯承認：2007年4月

原題：*God Loveth His Children*  
Japanese



04824 300